

2020.3  
No.138

# 膳所 市民ニュース

ZEZE CIVIC NEWS



発行 膳所まちづくり委員会  
編集 情報発信部  
膳所市民ニュース編集班  
(膳所市民センター内 ☎077-524-2205)

市民ニュースHPには、お知らせやトピックス掲載中。

## 特集 向こう三軒両隣 生き生喜あわせ膳所のまち 膳所学区社会福祉協議会(社協)の活動を紹介します

皆さんは、社協のことをどれくらい知っていますか。社協は「社会福祉協議会」の略で、社会福祉を専門に行う民間の福祉団体です。

膳所のまちにも、自治連合会やプリングアップ、体育振興会などから選出された役員や自治会選出の福祉委員の皆さんが、日々、地域の福祉を支える多くの活動を行っています。

今号の特集では、膳所で活動されている「膳所学区社会福祉協議会」を紹介します。



膳所学区社会福祉  
地域福祉講座

### ● 創立65年を迎える膳所学区社協 ●

社会福祉協議会は、昭和26年「社会福祉事業法」に基づき、全国・都道府県レベルで誕生。その後、市区町村にも広がり、膳所のまちにも昭和30年4月「膳所学区社会福祉協議会」が設立。令和2年で65年目を迎えます。膳所学区社協は、大津市社協と連携して、身近でよりきめ細かな事業を行ってきました。

現在の膳所学区社協の会長は、吉村哲さん(本丸町)。若い頃から青年会議所活動やPTA会長、大津市子ども会会長、民生委員児童委員などを務めてこられました。そして膳所学区社協には、平成25年度から事務局長を、28年

度から会長に就任。「17年間、会長を務めてこられた吉田英夫さん(膳所一丁目)から会長を引き継ぎ、身の引き締まる思いがした」と当時を振り返ります。「とにかくがむしゃらに走ってきた」と言う吉村さんは、副会長の川村武さん(丸の内町)とともに、多くの地域福祉事業に携わってこられました。人口減少社会を迎え、コミュニティの希薄化や孤立が深刻化し、近年では災害が頻発するなど、地域社会を取り巻く状況は目まぐるしく変化し、社協の果たすべき役割や存在意義がこれまで以上に問われています。そんな状況の下、吉村さんの目標は「地域に根差した思いやりのあるまちづくり」です。

いった感想が寄せられています。

吉村さんは当初、「最近、〇〇さんが参加していないけど、誰か知っている人はいますか」といった声掛けをしていましたが、そのうち参加者全体に広がり、「〇〇さんはお孫さんの家に出掛けているから、教室は休んではるんや」など、お互いの気遣い合いが広がってきたとか。参加者の一人は「足を骨折して約2年、家で何もしないでいると、近所の人に誘われて参加した。仲間と出会えるし、本当に良かった」と話していたそうです。教室では、交流をさらに深めるため、年に一回、ミニ旅行を実施。今年石山寺に行ったとか。吉村さんは「この教室は、健康のためだけでなく、地域の見守りや交流につながっている。みんなとても仲良くやっている」と話され、多くの参加を呼び掛けている。



### 向こう三軒両隣 いつも笑顔で声掛けを

膳所学区社協のスローガンは、「向こう三軒両隣、いつも笑顔で『こんにちは』『お元気ですか』を声掛けあって、明るく、楽しく、助け合う、心の通う膳所のまち」です。一人暮らしの安否確認を兼ねた高齢者ふれあい給食サービス事業をはじめ、災害や転倒防止、権利擁護などをテーマとした合同福祉講座、膳所学区の体育振興会や人推協、民児協など各種団体との研修会やスポーツ大会等の共催事業を行っています。多くの人に参加してもらおうと、吉村さんは、いつも笑顔で、まずは声掛けから実行。「高齢者が地域の交流活動に積極的に参加できる環境づくりをもっと進めたい」と力強く話しています。



### 地域で顔が見えるつながりを! 社協をもっと知ってください



今から2年前、膳所市民センターの隣にあった膳所交番が廃止されました。最近では、高齢者に対する犯罪や事件が多発しており、地域生活に不安が広がっています。こんなときこそ地域のつながりが大事ですが、自治会に入らない人が増加し、高齢者や要支援者の把握、生き辛さや困りごとを抱えている人の把握が辛くなってきました。膳所学区社協を支える役員を含んだ担い手も高齢化が進み、担い手の固定化や他の団体と兼職が広がっており、心配の種は尽きませんが、吉村さんは「膳所はお互いが助け合う絆の強いまち。これからも社協の活動を頑張りたい」と笑顔で話され、次の事業の準備に余念がありません。

皆さんも、社協のことをもっと知っていただき、地域の福祉に参加してみませんか。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの催しや会議が中止、変更されています。今後も各種催しに参加の際には中止や変更の有無を主催者にご確認ください。

### いきいき 「生き生喜幸せ体操」 お互いの気遣い合いが広がる

2月のとある月曜日、膳所市民センターで体操教室が行われていました。会場では、講師の掛け声に合わせて、参加者の皆さんが「イチ、ニ、サン!」と元気よく声を出しながら体を動かす姿が見られました。この教室は「生き生喜・かみかみ幸せ体操教室」で、毎回約50人が参加されている人気の事業です。

この教室は、介護予防を目的に、椅子に座ったまま無理なく出来る体操として、平成22年から毎週月・金曜日の9時30分から膳所市民センターで実施されており、今では自治会館でも実施されるなど、膳所学区で広がりを見せています。



参加者からは「身体が動きやすくなった」「杖をついて歩いていたがいらなくなった」と

### ふれあいサロンで 地域の仲間づくりを

膳所学区社協の中で、特に広がってきた事業は「自治会ふれあいサロン」です。ふれあいサロンとは、同じ自治会に住まれる方々が「仲間づくり」「出会いの場づくり」「健康づくり」を motto に気軽に集える場で、平成15年から開始。膳所学区には61の自治連加盟自治会がありますが、孤独になりがちな高齢者の参加を呼び掛けた結果、現在では29自治会で32のふれあいサロンが実施されています。地藏盆や納涼祭、コンサートなどから、ラジオ体操・ゲートボール大会や

健康教室、防災や介護をテーマにした講座など、各自治会で特色のある事業が展開。吉村さんは、三世代の交流や災害時の近所の助け合いにつながればと願っています。



東郷町ふれあいサロン